

◇学校教育目標 確かな学力と豊かな心とたくましく生きる力をもった子どもの育成

【目指す教師像】

- 子どもの力を伸ばすために、日々の授業を大切にする教師
  - 子どもに「本当に正しいこと、大切なこと」を教える教師
  - 子どもに明るく接し、温かい言葉をかける教師
  - 子どもとよく遊び、共に汗を流し、きびきびと行動する教師
  - 子どものために力を合わせ、支え合う教師
- 「一時間一時間の授業の中にすべての教育がある」
- ・根気強く、繰り返す（規律・基礎基本）
  - ・教職員間で共通理解し、協力して臨む
  - ・ほめて育てる。自信をつけさせ、意欲を引き出す

【目指す子ども像】

- 進んで学び、自ら考える子ども
- 自他を大切にし、友達と仲良くする子ども
- よく遊び、よく運動し、よく働く子ども
- あいさつは、自分から、笑顔で元気よく相手の目を見てする子ども

到津プライド「いとうづ合言葉」

「い」いつもえがおで あいさつ 「と」ともだちとなかよく 思いやりのある言葉で  
 「う」うつくしい学校に、黙働しよう 「づ」つづけよう 挑戦、あきらめない

【目指す学校像】

- (1) 子どもが主役となる明るく楽しい学校
  - (2) 子どもが価値（ねうち）を感じ取る学校
  - (3) 確かな信頼で結ばれた学校  
 子ども相互、子どもと教師、教職員間、学校と保護者地域、小中の連携（板櫃中、井堀小、中井小） 保幼小の連携
  - (4) 保護者や地域に開かれた学校  
 安全で美しい学校→通わせたい学校に
  - (5) 研究・研修を通し教師集団が学び合う学校  
 「一時間一時間の授業の中に教育のすべてがある」という共通の基盤の上に立ち、「確かな信頼」で結ばれた「活力」ある学校  
 ※ 当たり前のことを当たり前でできる子どもを育てる。
- ◇ 子どもが「この学校で学びたい！」保護者や地域の人が「この学校に行かせたい！」教職員が「この学校で働きたい！」と思う学校に！

「チーム到津」の信頼と結束 ①お互いを思いやり、明るく元気な職場で、心をつなげて、よりよい仕事をしよう。ワークライフバランスの充実  
 ②「時を守り、場を清め、礼をつくす」③一人で抱え込ませない 教師も「とも育ち」④報告、連絡、相談の徹底（知らないことには対応できない）

令和6年度重点目標

《新しい時代を生きる力を！》

できる自分をみつけよう

「今の自分を知る」「未来の自分をイメージする」

【一人一人が生き生きと輝く】

「一時間一時間の授業の中にすべての教育がある」「教師の授業力=学校力」

○学習規律の徹底

- ・チャイムで始まり、チャイムで終わる
- ・最後まで相手（先生やともだち）の話を聞く
- ・正しい言葉遣いで教師も子どもも話す（呼び捨て×呼称は「さん」）

○学力向上・体力向上

- ・スクールプラン・到津スタンダードの共有
- ・プログラミング教育の推進
- ・GIGA端末を活用した個別最適化・協働的な学びの推進
- ・3年生以上の専科指導、5、6年生の持ち合い授業の推進  
 ※学級を超えての指導が当たり前
- ・体育科学習を要とする運動好きな子ども、運動習慣のある子どもの育成
- ・導入→めあて→活動→ねらい→振り返り
- ・教師の問い返し、協働的な学びでの問いを精選し、一人一人が考える（対話的で、深い学び）「授業5つのポイント」を日常化した授業づくり
- ・教師が語らず、子どもが説明する授業へ（GIGA端末で深い学びを）

○特別支援教育の充実

- ・すべての子どもに関わるという視点をもって教育する
- ・インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの具体を迫る
- ・保護者、児童に対して「特別支援教育」の理解を深める手立て
- ・特別支援学級「かがやき」学級との交流
- ・合理的配慮についての校内研修
- ・小倉北特別支援学校との交流

○健康・保健・安全教育

- ・8：35までに健康観察、8：40までに居場所確認 WBの活用
- ・けがは、当日保護者へ連絡（連絡帳は×）
- ・病院受診したけがは、再発防止のため、必ず終礼で報告
- ・不登校、無断欠席には家庭訪問

【自己肯定感を高める】

○規範意識の徹底

- ・上級生がつくる学校 人のために役立つ自分
- ・あいさつ「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」等
- ・もくもく掃除 どこを どのようにするのか手順と方法を明確に
- ・そろえる 「名札」「くつばこ」「黙働」
- ・時間を守る

○あらゆる教育活動における人権感覚を育む人権教育の推進

- ・確かな人権意識と人権感覚による温かい指導、同和問題、LGBTQ等
- ・体罰の禁止、言葉の暴力、連帯責任の禁止
- ・温かい言葉を教師も心がけ、子ども達の言葉を価値付ける
- ・新版「いのち」、「北九州市子どもつながりプログラム」の活用
- ・あったかタイムの充実、ほかほかレターの工夫…子どものよさを見つけて全校へ

○人間としてよりよく生きようとする心の育成（道徳教育）

- ・到津小の子どもとして、誇りをもって生きる
- ・シビックプライドの醸成（到津小のよさ 北九州市のよさ）
- ・「特別の教科 道徳」を要として、特別活動・教科等に生かす
- ・自尊感情を高めるために、高学年を中心に人の役に立つ経験を積ませる
- ・たてわり活動の充実

○自己指導能力を育成する積極的な生徒指導（機先を制する）

- ・「スピードをもって」報告・連絡・相談は確実に（事後報告も）
- ・即日対応、家庭訪問。（連絡帳より電話、電話より家庭訪問）
- ・問題事象には理由がある。問題の背景に寄り添う姿勢を忘れない
- ・いじめは、どの子にもどの学校にも起こり得る。子どもの発するサインを逃さない
- ・登校しぶりの段階での適切な対応。不登校・長期欠席の対応

【つながる】

○活力あふれる教職員集団の育成

- ・業務改善・・・業務の見える化、情報の共有  
 ※子どもと遊んだり話したりすること、教材研究は怠らない
- ・校内OJTの充実、研究会やサークルへの参加（キャリアマネジメント）
- ・定時退校日 自分の時間 家庭・家族を大切に
- ・ハッピー休暇（年2回程度）年間12日の年休消化
- ・綱紀粛正（飲酒運転撲滅、個人情報保護、体罰・ハラスメントの禁止）
- ・管理職や主任、同僚と情報共有、連携（行事等の事前連絡）

○保護者とつながる（連携強化）

- ・保護者には、常によいことを発信しよう
- ・通信、HP、Tetoru等で学校、学級の様子を知らせる
- ・学級、学年通信等対外文書は必ずチェックを受ける
- ・学習参観、懇談会は元気で明るい姿を見せよう（服装は重要）
- ・保護者も子育てで悩んでいる。寄り添って、ともに育てる姿勢で

○地域とつながる

- ・コミュニティースクールとしての地域の中での役割
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・地域行事への関心を高める

○保幼小中連携

- ・保幼小の連携（到津保育所、東筑紫幼稚園、愛の園保育園）
- ・小中一貫・連携教育の推進 9年間の育ちを支える

○各自の役割を生かした組織的な学校経営

- ・全ての子どもたちを全ての教職員で育てる。教師を一人にしない

○食育の推進

- ・給食を生かした食育指導
- ・給食時間を守り、昼休みの確保
- ・アレルギー誤食を防ぐ2重、3重チェック
- ・アレルギー対応 おかわりの禁止、食中毒、異物混入の防止（引率）

○防災教育

- ・毎月の安全点検の確実な実施
- ・下校時刻の厳守。学年でそろえる
- ・けがを防止する校内環境、生活指導
- ・校外学習の事前届（安全面の徹底）

○プログラミング教育

- ・アンプラグドプログラミングの導入（低学年）
- ・系統的なプログラミング教育の実施
- SDGsを旨とした教科横断的な視点をもった教育
- ・未来を切り拓くための資質・能力を身に付ける